

# 行政視察等報告書（個人用）

平成29年11月13日

知立市議会議長 様

報 告 者	田中 健（立志会）
日 時	平成29年11月9日(木)・10日(金)
視察（研修）場所	沖縄県立武道館
目 的	第79回全国都市問題会議
<p><b>【概 要】</b></p> <p>テーマ「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略 ～新しい風をつかむまちづくり～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が都市を魅力的にするのか               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 都市の魅力とは何か</li> <li>② 来訪者にとっての魅力</li> <li>③ 住民にとっての魅力</li> <li>④ 複合的な魅力がひとを引きつける</li> </ol> </li> <li>・“ひとつながり”ことの意義               <ol style="list-style-type: none"> <li>① ひとつながりが高める都市の魅力</li> <li>② ひとつながりが作り出す都市の魅力</li> <li>③ 都市の魅力をひとつにつなげる</li> </ol> </li> <li>・地域の創生をめざして               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の側から見た“創生”の戦略</li> <li>② 地域の多様性を踏まえた政策展開の必要性</li> <li>③ 地域横断型の政策展開の必要性</li> </ol> </li> </ul> <p>●11月9日(木)</p> <p>■基調講演「多様性のある江戸時代の都市」東京大学史科編纂所 山本博文教授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巨大都市と多様な町</li> <li>・参勤交代がもたらしたもの</li> <li>・現在に続く町のかたち</li> </ul> <p>■主報告「ひとつながりまち ～新しい風をつかむまちづくり～」 城間幹子那覇市長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇市の魅力</li> <li>・那覇市の課題と取り組み               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 観光客と地元住民も楽しめるたちの創造に向けて</li> <li>② 新しいコミュニティの力を求めて</li> </ol> </li> </ul>	

## ■一般報告

・「人口減少社会の実像と都市自治体の役割 ～人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か?～」 首都大学東京大学院人文科学研究科 山下祐介准教授

- ① 地方消滅から地方創生へ ～東京一極集中と人口減少社会～
- ② 人口減の悪循環をどう読み解くか?
- ③ 人口ビジョンの(本来の)考え方と総合戦略のあり方
- ④ 成長社会の限界 ～リスク社会から、リスク対応社会を経て、安定持続社会へ～

・「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」 蝦名大也鉏路市長

### (1) 地方分権と地方自治

- ① 地方分権改革の変遷
- ② 自主・自立の地方自治

### (2) 自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり

- ① 世界一級の観光地作り ～観光立国ショーケース・国立公園満喫プロ～
- ② 長期滞在(ちょっと暮らし)の推進
- ③ 入湯税超過課税の活用

### (3) 将来を見通したまちづくり

・「新たなステージに入った沖縄観光 ～複合的な魅力を有するハイブリッドリゾートへ～」 琉球大学観光産業科学部長 下地芳郎教授

### (1) 「観光から Tourism(ツーリズム)へ」 ～都市にとってのチャンス～

#### (2) 沖縄観光の歴史

#### (3) 沖縄観光の現状

#### (4) 沖縄観光の課題(特に那覇市など都市部に関して)

##### ① インフラの質向上

- ・ 那覇空港ターミナルビルの新設及び港湾機能強化
- ・ 公共交通機関などの二次交通整備や多言語対応
- ・ ビジネスリゾート構築に向けての都市環境整備

##### ② サービスの質向上

- ・ サービス生産性向上
- ・ 食の強化
- ・ 新たな魅力創出

##### ③ 観光地経営の質向上

- ・ DMO 機能強化による観光地経営の質向上
- ・ 観光政策を担う行政職員の能力強化
- ・ 観光危機管理の強化

●11月10日(金)

■パネルディスカッション

「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略 ～新しい風をつかむまちづくり～」

ファシリテーター：早稲田大学理工学術院 後藤春彦教授

パネラー：

・「産業観光による地方創生」 (株) 能作取締役 能作千春産業観光部長

- ① 伝統産業の復活
- ② 新たな取り組み
- ③ 現状の産業観光
- ④ 現状の課題
- ⑤ 地方創生に向けて

・「人と人がつながり、共感で響き合う ～まちの魅力新たな地域価値創造～」 まちとひと 感動のデザイン研究所 藤田とし子代表

- ① 市民が主役のまちづくりを実現する活躍の舞台を創る
- ② 若者世代の活躍とつながりから、新たな地域価値を創出する

・「～感性・文化産業と沖縄感動産業戦略構築への道～ 感動立県おきなわ！を目指して」 沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田大一氏

- ① 道の始まり
- ② ミスキャスト！ ～県内騒然の異例人事発令～
- ③ この旅の終わりは、新しき道の始まり

・「ふるさとルネッサンス ～16年の軌跡～」 山岸正裕勝山市長

- ① まちづくりの理念と構想
- ② 「エコミュージアム」による構想の具体化
- ③ 事業の推進
- ④ 事業の改良と成果

・「人を育て・人が育つまちづくり～協働・連携の中で～」 染谷絹代島田市長

- ① 取り組みの方向性 ～市民との協働・連携～
  - ・市民参加型シティプロモーション ～島田市緑茶化計画～
  - ・地域住民との協働による「地域の魅力創出」
  - ・2,000人を超す市民ボランティアで「島田型おもてなし」
- ② 新たな連携の枠組み
  - ・民間との連携による「にぎわいの創出」
  - ・商工団体・金融機関との連携による「地域経済活性化」
  - ・近隣自治体との連携による「圏域の活性化」
- ③ 人を育て・人が育つまちづくり ～協働・連携の中で～

### 【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

今回の都市問題会議は、シティプロモーション（都市の魅力）を、文化・歴史・観光資源だけに留まらず、それらを「ひとのつながり」という大きな視点で捉えた内容だった。

人口減少や少子高齢化が進む中で、自治体間競争がこれまで以上に激しくなり、それぞれの自治体が、ポテンシャルを活かした自治体経営を求められる中で、資源の「発掘」や「再発見」を進めながら、定住人口、交流人口の獲得に勤めている。今回会議が開催されている沖縄県・那覇市では観光資源を最大限に活かし、国内外からの集客の獲得を地域経済の活性化の起爆剤として進めている。

様々なアイデアや取り組みは大変刺激的で参考になるが、それが果たして「サステイナブル（持続可能）」な取り組みか？と考えると、一時的なものが多いと感じる。しかももちろん、民間経営で考えると「持続可能な経営」などはありえない話で、常に「変化や進化」が求められて当然の話であり、「定番」だけで生きていける企業などは、ごく少数である。自治体経営についても、これからは同じ事（定番）を繰り返しているだけではまちとしての魅力は廃れていき、常に「変化や進化」が求められてくるものと受け止めるべきである。

パネルディスカッションのパネラーとして、沖縄以外の自治体経営者（首長）や民間企業の経営者から様々な取り組みを聞き、通り一辺倒の施策や他市の真似事の繰返しでは、これからの競争には打ち勝てないことを痛感した。

中央集権から地方分権に移行が進み、「ローカル・ガバナンス」が叫ばれて久しいが、これからの自治体経営は、ますます「国の補助金政策を書き写し、役人が考えた施策」に予算をつけ執行していく時代ではなく、現場の事業者・団体・市民のリアルなニーズを的確に把握し、「何のため」「誰のため」の施策であるか明確にし、「どのような手法」で進めていくかについても、民間の英知を有効に活用して検討し、それらをプロデュースして成果を挙げていくことが行政の役割と感じた。

一言で「地方創生」とは言うものの、限られた「ヒト」「モノ」「カネ」に加えて、「時間」「空間」を最大限に活かした施策を産官学民が一体となって絞り出し、「住んでよかった」「訪れてよかった」まちづくりを、これからも予断なく進めていけるよう、積極的に提言していきたい。



※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。